

取組名称	罨ブラザーズ			団体設立後の経過年数	5年
応募取組主体名称	土とデジタル / 山学ギルド / 食季café 展	活動地域	長野県上田市	応募取組の活動年数	5年
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門(概ね30代以下の次世代を担う若手が中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください) / その他				
応募取組に関連する 実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス / EXPO2025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨

「日々の“いただきます”の先に山や畑では、何が起きているのか」それを知ることで、味わえる美味しさがある。『罨ブラザーズ』は、罨のオーナーになることで街にいながら、狩猟を体験し、共に考える新感覚の罨シェアリングコミュニティです。「狩猟」「エシカル」「SDGs」に興味のある層に対して、猟師と繋がることで自らが捕獲したジビエ肉を食するという体験を届ける。その肉がどこからきて、生き物がどのように食物になるかを伝える、街と山を繋ぐ地域体験のデザインを実現しています。

実績の要旨

罨ブラザーズでは、「野生の鹿が増えすぎている」「農作物の被害がある」という里山の課題、「猟では生計を立てられない」「駆除した鹿は、肉として食べることなく廃棄せざるを得ない」という猟師の課題、「環境のために何かしたいとぼんやり思っているが、実際どうアクションすればいいかわからない」という都市部の生活者の課題、これら三者の課題に同時に向き合うことを実現しています。実際に、これまで250人以上の人々と関係を構築し、ジビエ肉の美味しさを街に届けることが、実は山の保全にも繋がっているという循環を生み出してきました。この活動を通して、まずは自分達が楽しく無理なく狩猟を続けていき、そして全国の猟師にこの体験のデザイン、輪を広げていきたいと思います。

取組評価の項目	環境への貢献	罨猟を通じて、鹿の個体数を抑制することで、農作物への被害を軽減し、自然生態系のバランスを維持することに貢献しています。
	社会・経済への貢献	罨猟によるジビエ（野生肉）を地域の新たな産業として広め、都市との関係人口を生み出し、地方経済の活性化を促進しています。
	地域資源の活用	長野県では毎年約3万頭の鹿が駆除されるが食肉利用率は23.5%(令和5年)。捕獲された獣を食材（ジビエ）として資源を最大限活用しています。
	普及・汎用性	都市部の消費者にもジビエ料理や自然との共生の考え方を伝え、他の地域や鹿以外の狩猟にも応用可能なモデルを築いています。
	革新・ユニーク性	狩猟や環境課題というテーマに、軽妙なネーミングで親しみやすさと新しい価値観と共に、山・猟師・都市の三方良しを実現しています。
	継続性	5年が経過し、待機リストには数百人が登録しています。また飲食店や企業との取組もはじまり、より持続性の高い仕組みになっています。

展望の要旨

実際に現地での活動を自身の目で体感したいという声をきっかけに、昨年からはスタートしたジビエ食体験ツアーには100名以上の方に、上田の地へ足を運んでいただきました。また、2025年に上田市とジビエ消費促進のためのコンソーシアムを設立。上田市や企業との取組にも注力していき、今後より有害鳥獣問題の解決と自然の恵みであるジビエの食肉利用活性化を目指していきます。